

【p 4～p 9】 オオムラサキのたん生

1 資料活用にあたって

- 長文のため事前に読ませておき、授業では、4ページから6ページの1行目までは教師が要点を説明し、6ページの2行目から教師が範読する方法もある。
- 主人公がさなぎを触った時にブルッ、ブル、ブルッと震えることに驚き、鮮烈に生命を感じる場面では、子どもが頭で考えるだけでなく、自分自身が生き物を触った時に「生きていること」を実感した体験とのかかわりを大切にする。

2 資料の読み方のポイント

- 変化するのは：たいき君（子どもが「たいき君」になって考えられるように発問を工夫する。）
- 変化するきっかけ（助言）は：指でふれて「ブルッ、ブルッ、ブルッ」とさなぎが激しくふるえたこと
- 変化するところは：「たいき君は、さなぎを見ながら小さな声で言いました。『放っておいてごめんね。』」

3 読み物資料の素材について

【参考文献等】

- ・ 『月刊 たくさんのふしぎ』通巻302号「オオムラサキ舞う森 昆虫少年の夢」草山万兎・文 足立隆昭・写真、福音館書店、2010年

【参考URL】

- ・ 兵庫県立丹波の森公苑
<http://www.tanba-mori.or.jp>
- オオムラサキについて
 - ・ オオムラサキは、チョウ目・タテハチョウ科に分類されるチョウの一種である。成虫のオスの翅（はね）の表面は、光沢のある青紫色で美しい。メスはオスより一回り大きい、翅はこげ茶色をしている。オオムラサキの幼虫は、冬の間は地面に降りてエノキの根際や落ち葉の中で越冬する。幼虫は春になるとエノキやエゾエノキの葉を食べて成長し蛹になる。そして、6月から7月にかけて成虫となる。
 - ・ 1957年に「国蝶」に選ばれているが、現在は環境省により準絶滅危惧（NT）に指定されている。
- 本資料の素材について
 - ・ 本資料の話は丹波市にあるA校の取組がもとになっている。A校の近くの川にかかる橋の欄干にオオムラサキが描かれている。同校区では、以前はオオムラサキがたくさん飛んでいたという話を聞いたA校の3年生が、「もう一度オオムラサキを飛ばしたい～オオムラサキ復活プロジェクト～」という計画を立てて取り組んでいった。まず、オオムラサキの幼虫さがしから始めたが、見つからなかった。そこで、県立丹波の森公苑（丹波市柏原町）からオオムラサキの幼虫を8匹分けてもらい、飼育・観察を続けた。そして、ついにオオムラサキが誕生（羽化）したのである。この取組は、丹波の森公苑の足立隆昭先生（森づくりアドバイザー）の指導のもとに進められた。
 - ・ A校以外にも丹波市内や丹波篠山市内には、オオムラサキの幼虫を校内に生えているエノキに放し、飼育に取り組んでいる小学校がある。
 - ・ 県立丹波の森公苑では、初代河合雅雄公苑長（現・名誉公苑長、京都大学名誉教授）の夢である「オオムラサキが舞う丹波の里山」の実現に向け、公苑内に約370本ものエノキを植え、平成19年から飼育専用ケージの中でオオムラサキの飼育に取り組んでいる。また、夏には公苑内のクヌギ林へオオムラサキの成虫を放蝶し、自然界での成長を見守る取組も行っている。

4 展開の具体例

- ・主 題 名 ・命のすばらしさ D (18)
- ・資料の概要 ・「オオムラサキをとばそう」という計画を立てたたいきたちは、譲り受けた幼虫に関心を寄せながら観察を続けていった。動かなくなったさなぎを観察しに行かなくなった時、先生からさなぎを触ることをすすめられ、激しく振動するさなぎに生命の存在を実感したたいきは、羽化したオオムラサキをあたたく見つめる。
- ・ね ら い ・さなぎにふれた時、「ブルッ、ブルッ、ブルッ」と激しく震えることを体験して道徳的に変化したたいきを通して、生命の尊さを感じ取り生命あるものを大切にする道徳的心情を育てる。
- ・展開の具体例

	学習活動	主な発問と予想される児童の反応	
導 入	・今日の資料に興味を持つ。	副読本P9の写真(オオムラサキ)の写真をみましょう。	
展 開	・資料の範読を聞きながら黙読をする。 ・こうた君と顔を見合わせてにっこりした時の主人公の気持ちを考える。 ・先生から観察日記を書いていることを注意された時の主人公の気持ちを考える。 ・指で触れたさなぎがはげしく動いた時の主人公の気持ちを考える。 ・さなぎを触った時の感触を思い出している主人公の気持ちを考える。	観察日記を書きながら、こうた君と顔を見合わせてにっこりしたたいき君は、どんなことを思っていたのでしょうか。 ・大きくなるのが楽しみだね。 ・きれいなオオムラサキになって飛ぶ姿を早く見たいね。 「かれてるみたいで、見に行ってもな……。」と言った時、たいき君は、どんな気持ちだったのでしょうか。 ・動いて葉っぱを食べないと、見ててもおもしろくないな。 ・もうかれて死んでしまったのかもしれないしな。 ・毎日同じ様子を日記に書いてもしかたないよ。 「放っておいてごめんね。」と小さな声で言った時、たいき君はどんなことを思ったのでしょうか。 ・ちゃんと生きているんだね。すごいな。 ・動かないからといって、見に行かなくてごめんね。 ・動かなくても、さなぎの中で大きくなっていたんだね。 ・勝手にかれているみたいだと思ってしまっでごめんね。 飛び立つオオムラサキを見ながら、たいき君はどんなことを考えていたのでしょうか。 ・あの時のさなぎの中の命が飛び立ったんだね。 ・ちゃんと強く生きるんだよ。 ・これからもオオムラサキの命を大切に守るよ。	よう虫の成長を楽しみにしている主人公の心に共感させる。 主人公が観察日記を書かなくなったのは、さなぎに命の存在を感じていないからであったということをおさえる。 さなぎがはげしくふるえたことがきっかけとなり、さなぎの命を強く意識し、驚いている主人公の心に共感させる。 ブルッ、ブル、ブルッという感触を思い出し、生命の存在を実感している主人公の心情の高まりをおさえる。
終 末	・感じたことを書く。	感じたことを道徳ノートに書きましょう。	